

## 昂レッスン会場はヨハン・シュトラウスの世界へ！

2月20日

□ 2月20日(金)のレッスンは、奥村の体操と本並先生のヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮、近藤静さんのピアノ伴奏で、「山賊のギャロップ」「美しく碧きドナウ」「初心のうた」「春を待つ」の4曲を、そして最後に再び「山賊のギャロップ」を復唱しました。(参加者全26名)



□ 「美しく碧きドナウ」「山賊のギャロップ」は静さんのピアノ伴奏の雰囲気も相俟って、ねむかホールは久しぶりにウイナワルツやオペレッタに出会えて華やかで元気な空気に包まれました。「美しく碧きドナウ」は昨年の「第9回コンサート」の演奏以来、実に10か月ぶりの声合わせとなりました。ヨハン・シュトラウスの世界・ウイーンの雰囲気にはまだまだ遠い位置にありますが、これを少しずつその世界に近づけていきましょう！



(参考資料)

## 「山賊のギャロップ」

(出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』(2011/01/05 14:18 UTC 版)より)

「山賊のギャロップ 作品 378 (Banditen-Galopp)は、ヨハン・シュトラウス 2 世が作曲したギャロップである。1877 年に作曲されたギャロップで、本来は喜歌劇『メウザレム王子』の中の曲である。『メウザレム王子』の初演が失敗したため、シュトラウス 2 世は劇中の旋律(第 2 幕の第 1 場)を用いて編曲し、この作品を独立させた。初演は同年に行われている。

ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートで時折演奏されているが、最近の演奏では 2006 年のマリス・ヤンソンスの指揮によって行われており、曲が終えた直後にヤンソンスがピストルを撃つという演出がなされている。」

(注)ウィーンフィルハーモニー管弦楽団の「ニューイヤーコンサート」は、ウィーン新春の名物、世界で最も注目される演奏会の一つである。「美しく碧きドナウ」は最近ではアンコール曲の一つとしてその定番曲であり、また「山賊のギャロップ」もその軽快な音と華やかさがあいまって、最後のアンコール曲として演奏される曲である。(編集者記)

## 全国の熱気がすごい！

＜日本のうたごえ全国総会 in 名古屋2/14～15の感想＞ 川妻成美

全国の代表が集まっているので当然ですが、すごい意気込みと活気を感じた 2 日間でした。

東北の震災や広島のと砂災害の被害の苦しみを乗り越えてがんばっている合唱団を始め、単に歌を楽しむだけでなく社会の動きと関わって、困難な状況の中で地域や職場での地道で多彩な取り組みが各地から報告され、いのちや平和を大切にするうたごえならではの総会であったと思います。

(立川さんにそそのかされて仕方なく!)私も発言するつもりで緊張していたので、希望者多数で×になったのでほっとすると同時にちょっと残念でした。

今年の愛知祭典については、内容がありすぎて課題もいっぱい等々指摘もありましたが、すごいものになりそうと期待が膨らむ提案がなされました。ぜひまた参加できるよう日々の練習をがんばりたいです。

庭に咲く花 三村千晴



クリスマスローズ



フリムラ